

# みどりのゆび

諏訪中央病院グリーンボランティア通信 No.134号 2024年6月26日発行

## 5月29日に春のグリーンバザーが開かれました



「やっぱり晴れたね～！！」を合言葉に始まった春のバザー。

前日の土砂降りの雨の中での花束作り、値札付け、などの準備をしながら誰もが願った翌日のお天気。今年のバザーは東西の庭全体を使っての開催という初めての試みなのでなおさらでした。

西ガーデンの「陽なたぼっこ」でのリサイクルショップ、こもれび前での花束

コーナー、テントの中での手作り小物コーナー、東ガーデンでの苗売り場、そしてコロナ禍が明け、5年ぶりにハンドトリートメントがリンデンバームの樹の下で行なわれました。向かい側にある東屋はハーブティーサービスのお休み処に。

「手だけでなく、足もマッサージしてくれて、足が軽くなったの、気持ちよかった。来て本



当によかったわー。」とお茶を一服された女性が笑顔で語ってくれました。樹齢 25 年を過ぎたリンデンバームの樹の空間は、見事に癒しの場となりました。まもなく、ほんのりと甘い香りの花をつけてくれます。

バザーは大盛況で幕を閉じました。お客様と、関わって下さったすべての皆様に感謝！！ [高橋 (京)]

## \*\*\*\*\* サマータイムのお知らせ \*\*\*\*\*

蒸し暑い季節になりました。7月3日(水)から活動時間を変更します。

9:00～11:00 庭作業 11:00～ 作業後ミーティング

## ヒメタイサンボクを植えました

茅野市南大塩の久保田好正さんからの寄贈を受けて、5月8日に東の庭に植えました。久保田さんは以前、渡り蝶のアサギマダラを呼ぶために、フジバカマの株を寄贈して頂いた方です。重ねてのご好意に感謝いたします。

ヒメタイサンボクは北米東南部原産の半落葉小高木で、昭和初期に日本に渡来しました。初夏に咲くクリーム色の花からは甘いバニラのような香りが漂います。久保田さんは患者さんに心和む香りを嗅いでほしいと言われていました。タイサンボクと違い、寒冷に強く樹高が小ぶりで葉が薄いのも特徴です。

現在2mほどの高さですが、活着し、うまく育ってくれたらいいなと思います。 [金子]



## コラム No.27

## 風薫る庭で

東京の府中から原村に移住し、今年で15年目に。都会暮らしが長かった私達には、思いもよらない問題が次々に起こり悩んだ事も。石だらけの土地なので、庭造りは何度も失敗。とうとう腱鞘炎に。庭を見るのもイヤになり、ほったらかし状態に。



昨年、入院中の母の面会が叶い、毎週東京に通っていたため、庭は草ぼうぼう。年末に母が亡くなり、今年ゆっくり庭を眺めると、忘れていた花々が昨年の猛暑を乗り越え、枯れずに次々と咲いて美しいのです。木々はいつの間にか大きく育ち、木陰を作り、草は地面を保湿し、やさしい庭になっていました。

ある雑誌にこんな記事が。

タンポポは太く長い根で硬い土壌をほぐし、スギナは枯れる時にカルシウムを土に補い、中和する。雑草は自ら必要な土地を

選んで生え、土を良くすると。そうか、我が家の庭はゆるゆると頑張らない。これで良いのだ。

今朝も窓を開けて、植物の出す香りを胸いっぱい吸い、葉や草や花の間をすりぬける風を感じ、本当に気持ちが良い。幸せ！ [藤山]

